

## 令和2年第8回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和2年8月24日(月) 14時00分
- 2 閉会日時 同日 15時25分
- 3 開催場所 加西市役所 1F多目的ホール
- 4 出席者 教 育 長 民 輪 惠  
委 員 沼 澤 郁 美  
委 員 楠 田 初 美  
委 員 中 川 和 之  
委 員 深 田 英 世

5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	本 玉 義 人
次長兼教育総務課長	今 西 利 夫
教育委員会次長(文化財担当)	森 幸 三
教育委員会課長(施設担当)	井 上 英 文
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	伊 藤 勝
生涯学習課長	松 本 富 美
総合教育センター所長	常 峰 修 一
図書館長	藤 川 貴 博
こども未来課主幹	周 夕 美
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため事務局の出席者を減らしての会議とする。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移る。

6 付議事項

なし

7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

## 8 質問及び討議の内容

なし

## 9 議決事項

なし

## 10 報告事項

### 教育長

7月16日の定例会以降、行っていた学校訪問を継続し、市内16校全ての学校を訪問した。それぞれの学校にそれぞれの特色があり、それらを大切にしながら今後どうするかということをしごく感じた。

7月19日には加西市能・狂言プロジェクト「希望と祈りを込めて～加西から世界へ～」という会が、観世流シテ方の観世鋏之丞氏と野村萬齋氏のご協力により開催された。教科書に登場する狂言「柿山伏」を野村萬齋氏が主役で演じられ、楽しく大変豪華な会であった。その後、こども狂言塾生が新作狂言「根日女」を演じた。今回、こういう状況のため、応募された限定100名の市民、そのほかに50名以上の校長、教諭を初め学校関係者に自由参加でお集まりいただいた。ともすれば部署別の縦割りになりがちな様々な催しをこのように横の交流ができるようにと以前から考えており、今回特にそういう感を強くした。横の交流から新しい文化の花が咲いていくことは確実にあると思うので、大変よかったなと感じた。

7月21日に、第284回令和2年加西市臨時議会が招集され、児童生徒の熱中症対策事業として、クーラタオルや製氷機等の購入費、それからスクールバス運行費用に係る補正予算、専決処分報告、学校振興費、学校給食費の一部無償化などについての給食施設運営費等の補正予算が審議され、いずれも可決された。

また、学校訪問に引き続き、公民館等の施設も全部訪問させていただいた。公民館はソフト、ハードともに地域活動のかなめであると強く感じた。今後、館長初め皆様方と話し合いながら、新しいやり方等があれば模索していきたいと感じて帰ってきた。

また、定例校長会やこども園の園長会にも出席をした。

8月3日に議会の総務常任委員会が開催され、教育委員会に係る新型コロナウイルス感染症への対策と質疑が行われた。

昨日6月23日には、市民会館で教育委員会共催の「人権文化をすすめる市民のつどい」に参加した。今回の講師は、カンボジアのポル・ポト政権クメール・ルージュのもと10歳で本当に地獄のような体験をされ、10人家族が4人になってしまったという方が、日本で日本人の男性と結婚されたという、その体験談を交えた非常に具体性の

ある、人権とは何かというようなお話であり、大変感銘深く拝聴した。

今後は、こども園を訪問する予定。

以上、この一月の私の動き、感じたことを報告させていただいた。

#### 次長兼教育総務課長

令和元年度教育委員会点検評価報告書について報告する。去る7月9日に評価委員会を開催し、倉見、押田両委員に点検評価書についてご協議をいただき、両委員よりいただいたコメントを最終ページに記載した評価書の完成版をお手元に配布している。

両委員からは評価委員会として「概ね妥当」という評価をいただいた。コメントの内容としては、倉見委員からは「事業は目標を達成するための手段であることを忘れず、“何のために実施しているのか”を意識して取り組むこと、現状と課題をしっかりと把握して、目標と目標達成のための取組内容を考えていくことが大切です。」とコメントをいただいた。また、押田委員からは「新型コロナウイルス感染症への対応が求められる中、「新たな生活様式」に基づいた事業並びに点検評価となるよう、今後の展開を期待する。」とのコメントをいただいている。

この評価書については、今後市長及び議会へ提出、報告するとともに、市ホームページ等において公表する予定である。

次に、スクールバスの運行状況について説明する。7月20日月曜日から運行を開始している。11小学校で概ね通学距離が1.5kmを超える児童を対象としているが、車両の乗車定員に余裕がある場合には、学校判断で運行ルート途中等の対象外児童を乗車させることも可としている。人数、道路状況等に合わせ、大型バス11台、中型4台、小型9台とジャンボタクシー2台の計26台で、28コース、乗車対象児童が多い日には、コースによりピストン運行をするなどの対応をしている。利用人数は少ない日は約650名、多い日は約700名で、1日平均670名程度の児童を送り届けている。日によって人数の増減があるのは、曜日によって学童保育に残る日、残らずバスで帰宅する日と変則的に利用する児童があることによる。運行開始日以降、猛暑日が続いており、下校時における熱中症対策として、大きな効果が出ているものと考えている。

#### 教育委員からの意見および学校教育課長、次長兼教育総務課長からの回答

・教育委員からの意見：熱中症対策でいろいろ考慮していただきありがたく思っている。私は7月21日か22日及び8月17日の2回、実際に子供と一緒に学校から歩いて帰ってみた。8月17日は、7月のときに比べて大分気温が上がり、歩いたときの暑さも全然違うと感じた。たまたまうちの町に小学校1年生の女の子が1人おり、その子は多分1.4~1.5kmの間だと思うが、途中3、4回くらい補水しながらなんとか帰ったが、これからもずっと徒歩で帰るのは大変だなと思い、学校には一応伝え

た。最初は1.5 kmの根拠を言われていたが、体育の時間の40分、50分はわかるが、気温が34、35度まで上がってしまうと、体育をする時間と関係ないのではないかと思った。その子は今後、バスで帰られると思うが、どうにか低学年だけでも、1.5 kmとは言わず1 kmくらいまではバスで帰った方が良いのではないかと思った。高学年はなんとか水分を補給しながら行けるが、低学年には命にかかわることなので、何とか助けてあげたいと思った。

・このたびの加西での熱中症対策スクールバスの運行は、本当に子供たちにとって手厚い方法でありがたく思い、喜んでいる。近隣ではバス運行はなく、傘をさしていると聞いているが、どのような状況であるのか。加西だけでもこんなにいろいろと取り沙汰されているのに、もっと大きな姫路などがバスもなく、無事に子供たちは帰れているのかと思う。そのような近隣の教育委員会の情報は何か聞いているのか。

(学校教育課長の回答) 近隣の教育委員会では、3月以降連携を取っている北播磨の他の4市1町を中心について情報を得ている。もともとスクールバスがあったところもあり、一概には言えないが、例えば隣の加東市とはスクールバスの運行について共に前向きに協議、検討をしてきた。北播磨管内の近隣では2 kmを限度にしてバスを運行していると聞いている。

委員ご指摘の姫路等とは、規模も違い、大きな市町は1つで施策を打てないことがあり、バス運行ができないとも聞いているので、やりとりは特に行っていない状況である。中にはスクールバス以外に日傘を配付した市もあるが、日傘の配付まではしないが、雨傘、日傘を自由に持ってソーシャルディスタンスをとりながら下校させるなど、それぞれ工夫をされていた。クールタオルを配付する際にも、こういう素材でこういうものを配ろうと思っているといったことを担当者レベルで常に連絡を取り合い、より良いものをどうやって配付するかを相談し、知恵をいただいたりという連携をとってきた。

・総合教育会議のときは、バスのことは出ていなかったと思うが、急きょ、そういう話になり実行されたのか。どのような判断でされたのか。

(次長兼教育総務課長の回答) 急きょと言っても、本来の夏休み期間を短縮して学校を開こうとなった時点で、夏場の登下校時における熱中症対策をどうしていくのかを6月くらいから内部ではずっと相談していた。いろいろな方法を考えていた中、総合教育会議で教育委員からスクールバスはどうかという提案をいただいた。また非常に気温が高い日が続くという長期予報が6月終わりに気象庁から出たこともあり、安全第一でスクールバスの運行を行うという方向になり、7月に急きょ段取りをした状況である。

・低学年は5時間授業のところが多いが、高学年は6時間まで授業をしていたため、一緒に帰る4時くらいまで低学年は宿題等をしながら高学年を待つという状況があったと思うが、そのあたりはどうだったのか。

(学校教育課長の回答) バスの運行を計画する前の一斉徒歩下校をさせる際から、低学年の子供たちには暑い中での下校は負担が大きいので、高学年が勉強している6時間目の授業帯を使って、家庭学習を学校で済ませることを計画した。これまで学力保障できていなかった分も先生や支援員に支援してもらい、きめ細かく学力を見ていくことが必要であろうということで、6時間目をあえて残して学習を進めてきた。1年生のことを皆さんから心配いただいたが、学校現場の管理職からは、体力的にきついところもあったが、学校にもなじみ、帰って宿題をしなくても済むことで、ゆとりを持って生活できたのではないかとの感想を聞いている。

・教育委員からの意見：スクールバスの運行は一応8月28日金曜日で終了するが、この今の状況では、いつまで残暑厳しい状態が続くのが分からない。スクールバスの運行が終了しても、低学年だけで帰すのは心配である。例えば今の状況がよいのなら、子供たちの安全対策のために全校一斉下校という形はできるのか。それともやはり低学年は早めに帰した方がいいのかというあたりも、ご議論いただきたい。

・スクールバス等の急ぎの対応をしていただき、配慮は本当にありがたく思っている。スクールバス、クールタオル、製氷機等の対応を緊急にさせていただいた後、それに対する保護者の方々または現場の職員の方の声で何か現状で聞かれているものがあれば、教えてほしい。

(学校教育課長の回答) 製氷機等は学校の設置状況に若干の差があるので、すべての学校からの声ではないが、今日も中学校の校長から「兼ねてから製氷機は部活動等で欲しかったが、なかなか手当できなかった。今後運動会の練習等もあるので、子供たちにとっても大変ありがたい」という感謝の電話が入ったところである。残念ながら保護者の声までは聞いていないが、実情に合わせた対応ができたと思う。

一番反響が大きかったのはクールタオルだった。事務局には、「長く使うためにはどう洗濯したらいいのか。どう扱ったらいいのか」という問い合わせまで届いている。中には「配ってもらってありがたい。十分に濡らして使うと冷たくて涼しいので、大事に使っていく」という声を直接お電話で聞くこともあった。加えて、学校では、PTAにお世話になったり、卒業生の中で(クールタオルを)援助してやりたいとか、地域で子供たちに対応をしてやりたいという希望もあつたりしたが、市教委から配ったことで、子供たちの熱中症対策になってよかったという声を学校を通じて届けていただいた。ただ、帰りの際に、タオルをきちっと巻いていない子もいる

との声も聞いているので、学校に改めて指導をしており、十分気をつけて参りたい。

スクールバスは十分に効果が出ているが、校長、教頭からは、9月以降もあったらしいのにと声は若干届いている。保護者からの声ということでは、ありがたいという声当初から届いている。1.5kmの区切りのことで最初は随分議論があったが、教育総務課のほうでうまくキャパを広げてもらったことにより対応ができて助かったという声も学校を通じて聞いている。

- ・教育委員からの意見：帰る子供たちを見ると、せっかくのクールタオルをしていない子のほうが多かったり、例えばバスで帰る場合は必要がなかったり、現状はどうであったのかということでも聞かせてもらった。これは何も今年だけのことではなく、来年もこれを踏まえて参考にしていけるべきことだと思うので、今回緊急に決めたことによる改善点等は来年に向けて今後の参考にし、ご検討をお願いしたい。

- ・教育委員からの意見：実際に学校に行き、大型扇風機を見せていただいた。その日の体育館は35、36度で、体育はできない状況であった。暑い体育館の中で大型扇風機をかけても、当然、暖かい風しか出てこないの、スポットクーラーのように少しでも冷たい風が出る機械を入れたほうがよかったのではないかと思った。来年以降も多分同じような気候で、年々暑くなってきているので、それも検討していただきたいと思う。

素人目で申しわけないが、いろいろとスポットクーラーを調べてみた。300万、400万というものもリースで買うと少し安いし、100Vのものもあった。素人目なので何とも言えないが、そんなにすごい空調設備を入れなくても、冷たい風が出るようなクーラーに近いものも多分あるのではないか。あれば、そちらのほうが体育の授業をするのには、扇風機に比べたらましだと思うので、調べていただきたい。工場などでも使われているので、急にはなかなか手に入らないとは思いますが、来年に向けて検討してほしい。早いうちに動いたら確保できるのではないかと思った。

(教育長からの回答) 熱中症対策も今リアルに実感があり、みんなもすごく心配してくださっているの、意見をきちっと伺った上で対処を今後考えていきたい。

- ・教育委員からの意見：特に午後の体育の授業は、外も暑くてできない。体育館へ行っても、扇風機はあるが、かき回して熱風を届けているだけである。時間割を変更して午前中のちょっと涼しいときに、子供たちの体を動かそうと工夫をされている学校もある。そのあたり、来年は夏休みがどうなるかわからないが、冬場に準備ができるようなことがあれば、検討いただけたらと思う。

学校教育課長

まず、新型コロナウイルス感染症に係る対応状況、熱中症対策も含めて先ほどお聞きいただいた報告と重ならないところを報告する。

7月26日に兵庫県が発表した新型コロナウイルス感染症関連患者の中に、加西市内の大型商業施設の専門店従業員が含まれていることが分かり、それに伴う状況について、連日、各学校からきめ細かい報告をもらいながら、感染拡大防止に努めてきた。幸いにして、市内小中特別支援学校の児童生徒並びに教職員にはPCR検査等で陽性反応が出た者はいなかったため、臨時休校や学級閉鎖の措置を取ることはなかった。ただ、身近にこういうコロナ感染症の事案が出たことで、改めて学校の中での体制の見直しをする機会となった。

8月20日、神戸新聞トップページに感染症の不安により欠席する児童生徒の状況についての報道があった。加西市でも当初からこのあたりについて大変慎重に数値の把握を行ってきた。通常では1学期が終わる7月22日時点で、感染症になると困るのでという感染症不安による欠席の申し出があった児童は0人で、全くいなかった。ただし、加西市に感染症があった関係で8月3日には12名となった。自主的に自粛をしたものは除き、不安だから欠席をしたいと申し出た者が、市内の小中特別支援学校で12名だった。その後、その週末8月7日では、夏季休業日の直前となるが、4名に減った。先週、8月20日木曜日時点では2名。これは兄弟なので、家庭で言うと1件となり、減っている。通常的心持ちで授業に復帰できている状況があると安心している。

熱中症に関しては、学校からは緊急搬送等の報告、重度な対応を必要とした報告は聞いていない。先ほどからのご質問やご意見をいただいているように、今後、来週から2学期が始まるので、対応を十分に行っていきたい。熱中症対策では、経口補水液や水分といったものを、十分にはできないかもしれないが、補助金を使いながら各学校に用意する対応を考えている。

次に、9月以降の学校行事について報告する。「令和2年度2学期オープンスクール等行事予定一覧」を参照。本年度、教育委員の皆様による計画訪問を中止させていただいている。ただ、常日ごろ子供たちの教育活動の様子を見て、いろいろな助言をいただき、心配していただいているところであるので、教育委員の皆様には学校の様子を見ていただける機会を各校に問い合わせてまとめたものである。学校からの案内は、地域のご来賓の方々と同様に割愛させていただいた。例えば運動会なら、8月7日現在の計画段階での日にち、開始時間と終了時間をお示ししている。当日は例年にも増して子供たちの指導や安全配慮を全職員で最優先に取り組むため、その点もご理解いただきながら、可能であれば様子を見ていただきたい。

そのほか、通常では2学期の終わり、11月、12月に予定している校内学習発表会、音楽会、合唱祭も記載のとおり実施をされる。一部の学校では3密を避けられないため、保護者等に公開をしない学校も出ている。オープンスクールについても1回は必ず行われ、記載の日程で公開をさせていただくので、よければご覧いただきたい。「そ

の他」は学校の中で保護者等に公開される行事があった場合であり、マラソン大会等が中心になっており、記載の日程で用意している。子供たちは例年とは違う様子になっているが、訪問していただき、教育活動が十分に行われている姿をご覧いただき、ご意見をいただきたい。

最後に、ここに記載のない修学旅行について報告する。現在、修学旅行の実施について慎重に協議を進めている。校長会と連携し、加西市での感染症の状況と修学旅行先の状況を確実に把握した上で、実施の可否を判断しようと考えている。また、保護者等には「加西市修学旅行ガイドライン」を提示し、感染症対策の具体を示した上で、修学旅行の参加の意思を確認させていただき、保護者の同意を得た上で実施をしたい。今、中止の方向では全く考えておらず、何とかさせてやりたいという方向で小特中学校全て実施を計画している。

同じく自然学校トライやる・ウィークなどの校外活動についても例年とは形が縮小されて変わっているが、校外活動のガイドラインを示した上で実施を計画し、これについても保護者の同意をとりながらやっていく予定である。もし同意が得られず子供が休まないといけない状況が出た場合も、最善の配慮をして参りたい。

とにかく、各校、各職員の思いとしては、子供たちにその年その学年でしかできないこと、学べないことを一つでも多く機会を逃さずしてやりたい、学びの保障に最善を尽くしたいと考えている。子供たち、保護者、地域の皆さんの声を丁寧を受け止めながら、9月から教育活動の充実を図るよう、明日も定例校長会を持つので、教育委員会の他の課とも連携しながら努めて参りたい。

#### 教育委員からの質問および学校教育課長からの回答

- ・運動会と合唱祭のことであるが、小学校では今回はコロナ対策で来賓はご遠慮くださいという旨の案内文が来た。運動会は保護者だけ、学習発表会は1家族1人でお願ひしますという内容であった。こういう場合、教育委員は来賓なのでやはり控えた方がよいのか。

(回答) 教育委員会と教育委員の皆様の訪問は激励ということで、行いたい旨を既に学校には伝えている。ただ来賓という形ではなく、校長に様子を聞きながら横から見ただくのは構わないということで確認をしている。

- ・先生方の働き方については、世間ではコロナ事情以降、時間外労働が多い人なら100時間、普通でも80時間と聞く。私も家へ帰る途中、近くの小学校で9時、10時を過ぎても残業をされている様子を見る。働き方改革でもう少し残業を減らすよう、ずっと言ってきたが、コロナ事情で先生方も遅れを取り戻すのに本当にご苦労されているのだと思う。今日も教頭先生に会い、大変なのは分かるが、先生が体を壊して



しまわれては、子供たちも不安になってしまいますよと伝えた。今、学校の状況はどうなっているのかをお聞きしたい。また、コロナの関係でリズムが崩れて学校へ行けない子供もいると聞いているが、親御さんへのアンケート等は、取られているのか。

(回答) まず、教職員の働き方に関してお答えする。2カ月前の委員会でも委員から、例えば机の消毒などが先生方の負担になるようであれば、なんとか外部の力を借りてというご意見もあった。当然、支援員の配置ということも、こちらで予算を置いており、学校には周知を行っている。学校の規模によりかかる時間が違うようである。実際に聞くと、少ない児童数の学校では10分、15分でできる学校もあるし、大きな学校になると時間がかかっている。明日の校長会でも、支援員が必要であれば、こちらのほうで予算立てをしているためサポートしていきたいと話をする予定である。これまでも言ってきており、進めていきたいのだが、学校からは負担感はそのほど大きくないとして確認しており、実際の先生方の声も聞いている。教職員団体とも意見交換をしながら進めているところである。

残業が夜遅くまでになっていることで申し上げますと、ちょうど委員の近くの学校は今年、市の研究会を持っていた。しかし、教職員の働き方あるいは子供たちの学習成果については、コロナ禍ではなかなか十分に見通しを持って研究会が持ちにくいだろうということで、市教委から4校を集めて、規模を縮小する、つまり研究の成果は各学校へ通知するが、例年のような研究会は行わないと通知をした上で、そういった負担を減らそうと考えている。

また、各学校の持ついろいろな学校行事は学校長の裁量の中で設定されており、いろいろな行事がなくなることで、教室で席についた学習だけになると、子供たちも十分な成長を遂げられないので、特別活動や校外学習も含めて十分な吟味の下、教育課程を組むようにと、先日も教育課程を組む教務の担当者会の中で市教委から話をした状況である。

下校時の安全確保で先生方がバスに乗ったり、下校指導について行ったりと、どうしても子供たちが帰ってから他の勤務を始める時間が遅くなっている。実はそう言いながらも、中学校はこれまでから部活動をしているので、18時以降から正味仕事を進める職員もいる。その辺についても今後改善を図るべき状況があり、このコロナによって分かったことを、次の教訓に活かしながら考えていきたい。

保護者のアンケートについては、市全体では特に考えていない。各学校の中で子供たちの状況をきちんと把握するため、例年とは違って、夏休み中に全家庭と三者面談を持つようにした。中学校は進路があるので、盆を挟み前後どちらかで行っている。小学校も家庭訪問をなくしたので、夏休みまでくらいに行っており、アンケートではなく、一軒一軒の保護者と対面で状況を把握してもらおうようお願いした。その状況を踏まえ、例えばセンターのスクールソーシャルワーカーやスクールカウ

ンセラーの方々の力を借りながら、不安な子供たちにはカウンセリングするなどの迅速な対応を学校と連携して行っている状況である。

- ・私も「先生がそんなに大変であれば、支援される方をもう少し増やしてはどうか」と言ったが、教頭からは、「それは十分にあるが、支援する方はパートなどで、途中で帰られてしまうので、午後から先生の補助や指導をされる方がいない。できれば正規の先生が欲しい」と言われた。

(回答) 正規の職員となると国の制度の中で定数が決まっており、本当に我々も定数の先生に配置をしてもらいたいが、なかなかそのあたりは県のほうも、国の制度の中で配置をしてもらえていない状況がある。引き続きこちらからも要望を上げていきたい。

- ・修学旅行の話が出たが、ある校長先生と話をした中で、子供たちの思い出づくりや学習の成果を実場面という、やりたいという思いと、感染症のことが気になるということ、もう1つはキャンセル料のことで非常に頭が痛いとおっしゃっていた。姫路市が全部キャンセルをして、そのときどうなったのかとか、他市の様子も聞きながらできることではあるが、もしキャンセル料が発生するような場合に、何らかの手だてができないかと思っている。その点はいかがなのか。

(回答) ご指摘のように、キャンセル料が大体いくらかかるのか。企画料という形で何千円レベルだということは聞いているが、それはマックス何日までなのか。やるという方向で進めていく限り、前日直前まで中止の可能性もあるので、前日に中止になったときのキャンセル料はいくらかということ、今最後の詰めとして小中特別支援学校それぞれに確認をしてもらっているところである。委員ご指摘のように、キャンセル料は保護者負担だけではないということは、1学期の6月あたりから委員会の中でも議論をしているところである。近隣の状況も踏まえながら、加西市としてどうするのかをその状況に応じて考えていきたい。もちろん、キャンセル料は今の時点で予算取りはできないが、状況を踏まえて経過を見ていきつつ、サポートする大きな1つであると考えている。

- ・教育委員からの意見：ここで話していいのか分からないが、先ほど、教師の働き方改革の話があったので、便乗してお話しする。今、学校教育課長が言われたように、全ての学校を見たわけではないが、小学校ではバスに同乗されている先生方や下校時にお手伝いをして一緒に歩いている先生方をお見かけする。恐らく授業が終わってからの本来の休憩時間がそれではなくなってしまっているのではないと思われる。今年はこの緊急対応をしていただき、致し方ないところがいっぱいあると思うが、課長ご指摘のように、そういう場合で予算があるのならば、どなたか補助の

方をつける等の検討をして、来年に向けての1つの課題としてやっていただきたいと思う。今年は異常なことばかりだった。ただし、この異常は今年で終わりということではないので、できたらこれを踏まえて、一つ一ついい方向に向かうようによりしくお願いしたい。

#### こども未来課主幹

こども園の様子を報告する。こども園では0歳児から5歳児の幼い子供たちが安全に安心して生活できる環境でなくてはいけないということで、常日ごろから細やかな配慮を行っている。このたびのコロナ対策で、さらに細やかな工夫をして各園取り組んでいることをご報告させていただきたい。

まず、新型コロナウイルス感染者に係る対応状況について、手洗い消毒など、3密の回避、保護者への協力依頼と情報発信の3点にまとめて報告する。

まず、手洗い、消毒等については、うがいも含めて園では通年習慣づけている。その上さらに、例えば手洗いを少しでも楽しく長くできるよう、手洗い場に手洗いステッカーを張り、手にスタンプを押し、それが消えるまで楽しく手を洗いましょうという手洗い確認スタンプなどを利用し、工夫しながら取り組んでいる。また、消毒に関しては、消毒液を登園児の通路や玄関前に数カ所設置をしており、手指消毒をしてから入室させている。職員は日ごろから机等の消毒をしているが、さらに子供たちが日常触れるような場所、ドアノブや手すりなども適宜細かく消毒するようにしている。

マスクについては、3歳児以上は、戸外遊び、給食、おやつ、午睡の時間を除いて、基本着用で保育をしている。3歳児未満は1人1人の育ちにも大きな差があるので、強制はせず子供に合わせた対応をしている。また送迎者全員にマスク着用の依頼を徹底している。園により、午前と午後でマスク交換をしている園もある。

検温については、通年健康観察カードにて朝の体温チェックをしており、それに加えて園では午前と午後で2回検温をし、乳児は午睡時も検温をしている。幼い年齢の園児の中には熱性けいれんを持っている子供もおり、午睡以外に預かりの時間も検温をし、細やかに健康をチェックしている。職員に関しては、各自検温をして、職員室の記録用紙に記入してから入室することとし、徹底させている。

3密の回避については、幼い子供たちの生活場面ではなかなか難しい場面がとても多い。その中でも各園で工夫をしていることは、頻繁に行う手洗いうがいは、場を分散したり、人数制限をしたり、時間差をつけたりしながら行っている。さらに、うがいの際には周りのお友達にかからないようにという指導も細かくしている。

また、5歳児の給食当番に関しては、通常自分たちで生活を進めていく活動の1つとして園児が給食当番をしているのだが、このたびはそれをなくし、4歳児以下と同様に調理室で盛りつけをした給食をとっている。それから、給食とおやつの時間には、通常6人掛けまたは4人掛けのテーブルを使うので、段ボールやアクリル板で職員が

手づくりした感染防止用パーテーションを立てたり、園によっては全員前向きに座って食事をしたりするなどしている。乳児はできるだけテーブル付の個別ベビーチェアを使用し、1人ずつ間をあけてという工夫もしている。そして、もう1つには、大きな声で話をしないで食べるよう指導をしている。

遊び時間は、室内遊びも含めて年齢別やクラスごとに時間割を組んで遊んだり、遊び場の間隔を確保するために仕切りを使ったり、玩具の配置を工夫するなどしている。また、子供たちが室内で集まって話を聞く場面がたくさんあるが、場所を指定したり、年長児は自分たちで距離感覚がつかめるので、友達と間をあけるよう指導したりするなどの工夫をしている。換気に関しては、窓を開けたままで常時エアコンを使用している。それから、降園時については、通常は目を見ながら、さようならと握手をするのだが、このたびは握手なしの声かけのみで降園の対応を行っている。職員もマスクとフェイスシールドを状況に応じ着脱して、保育業務に当たっている。

保護者へどのように協力依頼をしているかについては、兵庫防災ネットで情報発信されることが多いため、未登録の方に入っていただくよう依頼している。また、園でのコロナ対策の状況をしっかりと保護者の方に情報発信し、県や国からの情報の提供を行っている。また、次に説明する2学期の主な参観行事は、事前にアンケートをとる園もあり、行事の変更内容がある場合には周知をし、保護者にご協力いただいている。

次に、2学期の行事取り組み内容については、園によりいろいろな規模があるので異なっている。例えば運動会では、園によって2歳児以上から参加する園、3歳児以上のみ参加する園といろいろある。今年度は年齢ごと30分の競技内容を考えている。密にならない内容で、手をつなぐとか、入場行進等はなしで今検討している。開催日も、通常土曜日の午前中に開催をしていたが、平日1日か2日に分けて午前中の開催内容を考えている園もある。先ほど運動会の観覧人数の話が出たが、園でも家庭から1名ないし2名という制限を設け、ご協力いただく予定である。

通常の音楽会は中止とし、かわりに平日2日から3日間、保護者限定のオープンスクールを開催する予定。この内容も遊戯室の加減でクラス別に時間差をつけて使用するなど、それぞれの園に応じた内容を検討している。どうしても見に行きたい方のため、リハーサルを専門業者に撮影依頼し、DVD化を検討している園もある。内容は日ごろの大好きな音楽遊びで子供たちが楽しんでいる姿を見てもらえるようにしたい。

本当に細くなるが、誕生会については、通常、遊戯室に全園児が集まって誕生児をお祝いする形だが、今年度はクラスごとに誕生会を開催している。こども園ウィークについては、通常は在園児保護者も対象であるが、今年度は未就園児の保護者のみで参加者の人数を調整している。役員会、PTA活動に関してはご協力いただくが、基本的に役員会と主催行事は中止とする。その他、一斉メール配信など必要な事案のみ開催する。子供たちへ少しでも何か触れ合い事業の代替案がないかということで、プレ

ゼントを考えている園もある。

毎年楽しみにしているバス遠足は中止とし、園の近隣への散歩に変えている。食育の中でクッキングを学期に2、3回行っていたが、それも今年度は中止。家庭教育として家庭教育講座や参観が通常はあるが、これも中止とし、そのかわりに家庭教育講座の講師を依頼した園では、職員の園内研修に変えているところもある。地域や小学校との交流は、子供たちの経験の幅を広げるのに非常に大切な触れ合いの場になるが、今のところは全て中止。実習生の受け入れは、予定通り行っている。

#### 総合教育センター所長

令和2年度の加西市立総合教育センター運営委員会について報告をする。7月7日に総合教育センターにおいて、センター事業運営にかかわる分野の関係する委員の方、センターの職員、教育部長の出席を得て運営委員会を行った。協議内容は、センター運営にかかわることで、いろいろな意見をいただきながら、それに応える形で行い、よりよいセンター運営についての模索を行った。特徴的なものとして、今年度は小中連携の教科ごとの指導連携シートを作成している。各中学校区内の小中学校教職員が学びの連続性を大切に、指導の連携について協議するために活用することを伝えた。それから、クロームブック等の導入を受け、家庭学習ハンドブックにどう活かすか、小学生の社会科副読本等についてもどのようにデジタル化に対応していくか、研修講座にどう組み込んでいくかなどの意見を頂戴した。

また、子供の問題行動については、コロナ禍の影響を受けての状況という質問が出た。現在のところ、コロナ禍の影響によるものは市内で確認していないが、コロナ禍というよりも全国的に小学生の問題行動等、暴力行為等が上がっている。これについては、より積極的な行動観察をしながら指導を加えた結果であるのと、小学生の対教師暴力の数字が上がっているが、発達支援を要する子供のパニックをとめようと対応した際に、大人に手が当たってということも暴力行為としてカウントするので、そういうことで上がっているという意見も出た。

続いて、本年度は運営委員会を兼ねて学校運営協議会のあり方の検討委員会を立ち上げた。県教委社会教育課が担当している関係で、センター運営委員会を活用しているが、学校の運営に関することなので、学校教育課とも十分連携をとりながら進めている。

まず、学校運営協議会とは何かと言うと、学校と地域住民と保護者が学校の目標やビジョンを共有し合って、地域が一体となって力を合わせて学校の運営に取り組む、いわゆる地域とともにある学校づくりのための機関である。これについては、背景に子供たちを取り巻く環境や課題の複雑化、多様化、それに伴い学びの支援や生徒指導支援、子供の安全の確保の必要性があり、地域で未来を担う子供たちの豊かな成長のため、地域の教育力も含め子供たちの生きる力を育むために地域一丸となるというこ

とが背景にある。設置について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、「各教育委員会は学校運営協議会の設置に向けて努力するように」と義務づけされたことが根拠になっている。

活動としては大きく代表的なものを挙げると、地域とともにある学校ということで、学校の運営方針を学校運営協議会が承認をし、承認された運営方針に則って学校が運営されていく。そして協議会は承認した以上、その運営に必要な支援等を行っていくことが明確され、学校運営について地域住民等の理解や協力、学校行事等への参画、あるいは子供たちの地域行事への参画等が促進されるようにということが大きな活動となっている。そういったところについて、さまざまな委員より質問や意見を頂戴し、進めた次第である。

その会議の中での今後の計画については、資料に記載のとおり、本年度に学校運営協議会設置に向け教育委員会規則の制定を計画している。そして、それを令和3年度中に規則の周知を行う。これは学校運営にかかわる大切な部分であるので、管理職、学校教育課等ともよく協議を進めながら、周知と推進に向けて図っていく予定である。令和4年度までに進捗状況、効果などを文科省等が把握し、一層促進するという観点で再検討が予定されている。加西市においては、市内の学校のあり方検討委員会があり、そちらの絡みも多少あると思われるので、その様子を見ながら、いつでも学校運営協議会が始められるよう規則等の制定を進めている。

#### 教育委員からの質問および総合教育センター所長からの回答

- ・資料に小野市の状況が書いてある。地域運営学校というか、コミュニティ・スクールの趣旨は非常に大事だと思うが、一部人事に関する事でやはりちょっと二の足を踏んでいるという教訓もあることが事実である。このことについて「各教育委員会で定めることになっている」というふうな文言があるが、このあたり加西市ではどのように考えていきたいと思われているのか。

(回答) 人事については非常にデリケートな部分がある。今現在は原案作成中である。人事の範囲については、採用、転任、昇任等が範囲であるが、校長に対して述べる意見とは、学校運営の実現のため必要な教育上の課題の解決を図るための一般的な意見であり、職員個人の採用及び任用に関する意見は述べないとしている市もある。非常に学校の運営に関して人事のことが絡むと、せつかくのよい取り組みであっても、少し難しい違う方向に行ってしまうといけないので、そういったところを加味しながら、教育委員会規則の原案を作成して、またこの場で議決いただきたいと考えている。

- ・教育委員の意見：私としては、例えばコロナのことで、こういう補助員が欲しいと

かそういう枠の問題としては非常に賛成だが、個々の人事ということになると非常に問題をはらむので、そのあたり十分配慮をいただきたい。

(回答) 中学校においても小さな学校になってきており、教科の先生が置けないとか、免許外の申請をしなければならないという事態で、非常に子供にも影響が出ているので、そういったところでいろんなご意見を頂戴し、学校教育課等とタイアップしながら教育の推進に努めて参りたい。

・学校運営協議会を制定したら、今ある学校の評議員制度は完全になくなるということか。

(回答) 学校評議員制度では、各学校においても校長に対していろんな建設的な意見をいただいております、加西市自体ではそれをうまく活用しながらスライドしていくことで大きな混乱なくできるように思う。また、学校評議員会については、加西市教育委員会学校運営管理規則では置くことができるとなっており、法令上置かなければならないわけではないので、これをなくすことは特に問題はない。学校運営協議会については、教育委員会が任命する形で始まっていくことになる。したがって、学校評議員会の流れ大切に学校運営協議会への移行を進めていきたい。現在、加西市においては子供見守り隊やわっしょいスクール、あるいはそれ以外の土曜チャレンジ学習や美バースデーも含め、非常に地域の支援をいただきながら行っているのので、そこを整理統合しながらうまく進める形が学校も混乱なく進めるベストな状態であると考えている。

## 1 1 協議事項

なし

## 1 2 教育委員の提案

・コロナに対する人権問題について。今、世間では、クラスターが発生したときの誹謗中傷がすごくひどくなっている事例がたくさん出てきている。それに対し加西市の小中学校においては、多分道徳になると思うが、児童生徒にコロナに対する誹謗中傷についての報告や情報共有は行っているか。もししていないのであれば、コロナ禍で密になるのはいけないが、児童生徒向け、保護者向けに一度そうした研修や講演を行ってみてはどうかと思う。

(学校教育課長の回答) 今、委員ご指摘の誹謗中傷についてだが、実際に発熱で学校を欠席する際、保護者の方がかなりデリケートになっている。この間の大型商業施設の件で、少し長期の出席自粛を行った場合に、そういう誹謗中傷されないかという恐れで心配になられた保護者もあった。ただ、学校のほうでも日ごろから子供の人権については丁寧に学級指導をしており、1人1人に対して報告をいただいている。

るが、大きな問題が出たという案件は無かったと確信している。

あわせて、コロナウイルス感染症の学校拡大が懸念される中、文部科学省からも人権配慮として資料も出された。昨日の「人権文化をすすめる市民のつどい」は例年では教職員の研修の場であるのだが、今年は控えてもらうかわりに、ふるさと創造部人権推進課のほうから、各学校にコロナに対する研修資料を送ってもらい、校内研修を行うよう対応してきた。実際、各学校で DVD や事例集を見ながら、研修をしたという報告もいただいている。ご心配いただいているところは、今回の大型商業施設での案件で直面した大きな問題であったので、今後も慎重に子供たちの人権配慮ができるよう努めて参りたい。

- ・提案ではなく要望であるが、センター所長の報告に ICT 機器が述べられている。クロームブックについては、北播の中では加西市が一番進んでおり、全員に配布というのはほかでは例を見ないような取り組みである。それを家庭学習でやるとかということも書かれている。当然、先生は忙しくなかなか研修の機会は難しいと思うが、せっかくカードが揃ったのだから、今度は子供たちの利用をどんどん進めていってほしい。

(総合教育センター所長の回答) クロームブックの研修については、体育大会等の準備で先生方は非常に忙しいが、入ってくる機器の使い方を先生方がわからないとためなので、9月頭に小学校で、体育大会が終わった後に中学校で、各学校ごと教職員を対象として業者から利用方法、活用方法について、導入に向けての研修を計画している。

- ・提案ではないが、「第2波の際には、就学援助家庭へはモバイルルーターを配布してネット環境を整える支援をする」とあるが、「ネット環境のない一般家庭に配付できない」というところは、前からずっと言われており、大きなネックになっている。実際、例えば自宅で待機したとき、ネット環境が整っていないことがネックとなり、学習できないのは問題である。今の現状を教えてほしい。

(教育委員会課長の回答) 記載のとおり、就学援助の家庭についてはモバイルルーターを既に購入しており、今後第2波等が来て休校措置になった段階で、全ての就学援助家庭へは配付できる。しかし、やはりどこかで線を引く必要がある。経済的に不安がある方については市で準備しないといけないが、ただ経済的に問題のない家庭に関しては、一般の家庭のほうでお願いしたいところである。また、最悪の場合、学校は Wi-Fi の環境が整っているのに、全部が全部集まると密になってしまうが、学校に来て使用するようなこともできるのではないかと思う。申し訳ないが、これ以上の整備は市としては難しい。



1 3 今後の予定について

- ・第 9 回定例教育委員会 9 月 23 日 (水) 14:00～1F 多目的ホール
- ・第 10 回定例教育委員会 10 月 22 日 (木) 14:00～1F 多目的ホール

1 4 その他

なし

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和2年8月24日

出席者

(出席者署名)